

3-1 多様な子供たちを誰一人取り残すことのない個別最適化された学びを支える指導体制について(教員)

義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について

- G I G Aスクール構想の加速化と併せて、きめ細かな指導により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、才能を存分に伸ばすことができる、個別最適化された学びを実現していくために、新たな時代にふさわしい指導体制が必要。
- 小学校における教科担任制の導入により、教科指導の専門性や授業の質の向上、教師の負担軽減が図られ、児童の学力の向上、複数教師による多面的な児童理解による児童の心の安定が図られるとともに、小学校から中学校への円滑な接続などが実現。
- 義務教育9年間を見通した指導体制の整備に向けて、小学校高学年の児童の発達段階、外国語教育をはじめとした教育内容の専門性の向上などを踏まえ、令和4年度を目途に小学校高学年からの教科担任制を本格的に導入すべき。

このため、以下の事項について検討を進めていく。

- ・ 義務標準法の在り方も含めた教科担任制に必要な教員定数の確保の在り方
- ・ 中学校における教師の在り方や小学校と中学校の行き来の在り方など、小中学校の連携の在り方
- ・ 教育職員免許法の在り方も含めた義務教育9年間を見通した養成、採用、研修、免許制度、人事配置の在り方
- ・ 義務教育9年間を見通した教育課程の在り方

等

教員養成等に関する検討事項

- 養成段階において、隣接する学校段階を見通した幼児児童生徒理解や指導力を身に付けられるような教職課程のカリキュラム、単位数や免許状の学校種の区分など、教職課程・免許制度の在り方
- 一般学部出身者の多い中学校教諭免許状取得者が小学校教諭免許状を取得するニーズに対応する教職課程・免許制度の在り方
- 現職教員が、所持している免許状とは別の学校種において指導を行うニーズに対応する研修・免許制度の在り方特に、小学校と中学校の間にまたがって現職教員が配置されるための研修・免許制度の在り方

小学校等における教科等の担任制の実施状況（平成30年度計画）

	国語 (書字を除く)	書写	社会	算数	生活	理科	音楽	図画 工作	家庭	体育	外国語 活動
第1 学年	1.1%	6.6%		1.5%	0.8%		12.2%	4.3%		6.1%	
第2 学年	2.3%	13.5%		2.5%	1.6%		20.7%	9.8%		7.4%	
第3 学年	2.4%	26.8%	6.0%	5.1%		21.6%	40.6%	16.8%		7.7%	11.3%
第4 学年	2.5%	29.7%	7.4%	5.9%		32.3%	47.8%	20.4%		8.4%	12.0%
第5 学年	3.4%	26.6%	14.5%	7.3%		45.1%	54.0%	20.4%	33.9%	9.9%	18.3%
第6 学年	3.5%	26.8%	15.5%	7.2%		47.8%	55.6%	21.0%	35.7%	10.5%	19.3%

(出典：平成30年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査)